

〇〇さんの、そこが知りたい!

第17回目です!今回登場していただくのは『合同会社MonkeyBusiness-CO.』(モンキービジネスカンパニー)の中嶋サマンサちゃんです。

かつて、ぼたん荘さんの柔道場だったあの場所を改装し、昨年12月に事業をスタートしました。「ヨーロッパで自分が大好きだったあの空間が野沢にもあったら...。」そんな思いから始まった経緯を話してくれました。

まだ29歳、僕よりも若いサムちゃんですが、明るく広い世界が彼女には見えているのだろうな...。強くそう感じるインタビューでした。

vol.17



Let's go
Bouldering

インタビューは2021年11月24日 「The Dojo Climbing」にて

謙：はいじゃあサムちゃんお願いしま〜す。

サム：は〜い。

まずサムちゃんの事業内容を教えてください。

サ：『合同会社 MonkeyBusinessCO.』という会社で活動してるんですけど、今のところ **The Dojo Climbing** がメインで、**ボルダリングジム** なんですけれど、**カフェバー** もあって登らなくても寛げる**スペース**というものでやっています。

いつから始めたの？

サ：来月でちょうど1年になります。

謙：だから…**去年(2020年)の12月**に始めたんだね。それは元々**どんなきっかけ**でボルダリングをやろうと思ったの？

サ：きっかけは…昔、**趣味で週4ぐらいの頻度**で(ボルダリングを)やってたんですけど、**野沢に引っ越してきた時に、すごい村が気に入った**んですけど、これがあつたら尚更いいなっていう…。自分が趣味で週4でやっていたから、**出来なくなったのがちょっとロスに思えた**のと、**ちょうどグリーンシーズンとコロナ真っ最中な時に前の仕事をやめた**ので、仕事も探していないから、自分で始めるしかないかな〜。っていうノリもあって。

謙：おお。「なら自分で作っちゃおう！」とね。
非常に合理的なね。

『The Dojo Climbing』の名前の由来は？

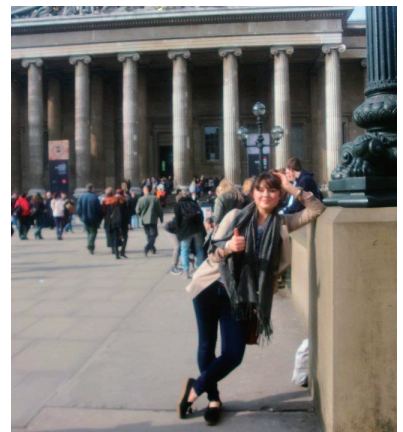
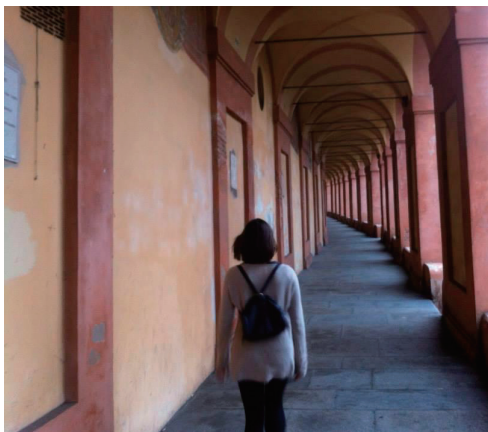
サ：結構、**海外のボルダリング場も、元々有った建物の名前を付ける**っていう文化があつて。工場とか、前は違う用途に使われている建物で壁を作る(ボルダリングの)ことが多いんですけど、そういうところも名前を変えずに…。**歴史を伝える**という意味でも。だからロンドンへ行けば『**castle**』っていうボルダリング場もあれば、『**The Biscuit Factory**』というところも有ったし、『**The Arch Climbing**』っていう路線の下のか。ここも『**道場**』っていう名前でみんな知っているし、**元柔道場**だったっていうのも、誰かにわかるように。あえて名前をそのままに。

謙：その文化いいね。前の人も嬉しいだろうし。かっこいい文化だね。

野沢へ来る前はどこで(趣味で)ボルダリングやってたの？

サ：えっと、来る直前は東京にいたんですけど、その前は**7年間ヨーロッパ**にいて、ロンドンがメインだったんですけど、イタリアとフランスにもいて、結構転々としてたので、まあ**引っ越し先も**だけれど、**旅先には必ずボルダリングのシューズも持って行って…とりあえずジムに行けば現地の人とかと、お話が**できたりするので、そこが入り口って感じで。

謙：そんなにそこら中にボルダリングってあるものなの？



サ：結構あります。今は日本も人気上昇中なので、増えてきているんですけど、**ヨーロッパは特にいっぱいあって、ここに来るお客さんは結構「珍しい空間だね。」**って言うってくれるんですけど、イギリスとかフランスは、ほんとにもう…ハンモックが置いてあったり。

謙：へ～！

サ：私がロンドンで通っていたジムは、オーガニックガーデンもあって…その食材をカフェで使ってたか。ジムへ行くんだけど、そこでお昼も食べて、デスクワークもして、それから登って、っていう…。もうほんとに1日居られるような施設でした。

謙：いや～、それは素敵だね。結構ヨーロッパっていうのはそういうのをミックスしてって感じなんだね。

サ：ん～なんかルーズ…**カジュアルさが良くて、行きやすいし友達も作りやすいし。**

謙：本当だね～。

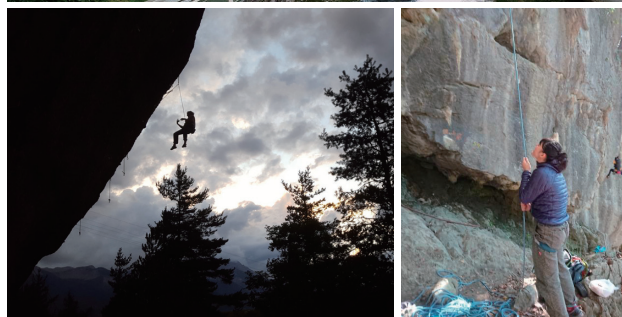
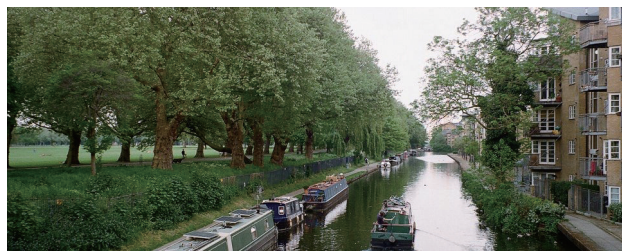
サ：それが東京のジムへ行った時に、**同じコミュニティ感がないというか、同じ感じで人と繋がれない**っていうのが結構フラストレーションになっていたっていうか。

謙：旅してみるもんだね。そういうヨーロッパの考えって本当に素敵だね。

サ：なのでこの事業計画とかイメージした時も、結構今までに行ったジムをまた思い出して、**その良い所を取り込んで**作ったっていう感じかな。

謙：おお～良いですね。

サ：バーが併設という所も多いし、なければ登った後にパブに行くみたいな、そんな習慣があるので。**趣味も一緒にやるし、その後の交流も一緒にするし。**その辺が東京ではあまりなかったですね。



謙：日本はやっぱスポーツはスポーツでって感じなんだね。

サ：なんかもうちょっとストイックな感じです。

謙：ヨーロッパは仕事として行ってたの？

サ：行ったきっかけはロンドンの大学なんですけれど、卒業して**翻訳の仕事**をして…リモートワークが出来たのでグルノーブルに1年ぐらいフランス語の勉強がてら住んで、それでよくスキーとかも行って…その後ロンドンに戻って、**クラフトビールのブルワリー**で仕事を2年ぐらいしました。

謙：ああ、それでトム（AJB）のところに？

サ：それは東京にいるときに**冬は白馬で過ごす、やっぱり山がいいな**と思って…えっと、**ビール関係の仕事がすごく楽しかったのと、山が好きだから…**それが組み合わせればいいなあとちょうど思っていた頃に。あとボルダリングでなかなか友達が今までみたいな感じで出来ないから、イベントを積極的に探していたら「**ブリコラージュ**」っていうブレッドビールのパンを提供しているパン屋さんと、ブレッドビールの発売のイベントがあって…そこに行って初めてAJBのことを知りました。

謙：ああ、本当！？すごい巡り合わせだね。

サ：はい。東京にいた時は全然関係ないマーケティ



ングの仕事をしていて。翻訳ちょこちょこだけれど、自分にとっても新しい業種で。で、なんか「ちょっと自分に合っていないな〜」と、ていうかデスクワークが合っていないなというので。(笑) なんか手に職をつけたいっていうのがきっかけで、まずロンドンでもブルワリーから入ったんですけれど。で、そのイベントで「**AJB がこのビールを作っているんだ。**」というのを知ってSNSでフォローし始めたら、結構すぐに求人情報がでていて、応募して…。で、**その時に面接で来たのが初野沢**です。

謙：ああ、そうなんだね。珍しい感じの辿り着き方だね。

サ：それも**6月ぐらいだった**ので誰もいなく…。だから**雪山の野沢とかは見たことがなくて**、で、**トムがすぐ翌日ぐらいに「採用したいんですけど」**って連絡をくれて。**もうそれで決めました。**

謙：すごいアクティブだね。どんどんそうやって自分で調べて行動していく感じが。

サ：なんか流れに任せているところは。

謙：素晴らしいですね〜。

サ：色々そういうのをしていると**次の機会も起こったりして**。自然と出ることが今までもあって。今に至ります。

謙：そういう人、大好きです。尊敬するわ〜。俺はあんまり、変化とかは苦手なタイプだから…。

パンもやってるんだよね。

サ：パンは、**お姉ちゃんがスイスに住んでる**んですけれど、旦那さんがフランス人で、**趣味で天然酵母パンを焼いていて**。で、お姉ちゃんは発酵食品のビジネスを向こうで始めたんですけれど。味噌とかキムチを作ってるんですけれど。

謙：一家で事業家だねえ。

サ：ヨーロッパに住んでいる時、お姉ちゃんのいる**スイスに1ヶ月ぐらい遊びに行く**っていう時期があって、**その時に麴(こうじ)とパンの生地**の面倒というか、**任されることがあった**ので、そこからちょっとパンの生地を触り始めて。その時はそんなに興味がなくて。で、こっち(野沢)に来た時『Pig&Barrel』で働いていたんですけれど、そこでパンを焼いていて、たまにお客さんが「**丸ごと1本買えないの?**」と声をかけてくれるようになって、その仕事を辞めた時に、『七良兵衛』の**カツさんが「よかったらここでもどう?」**って。そういう流れで。

謙：あれはスイспан? ドイツパン?

サ：もしカテゴリーに分けるとするとフランスなのかな。

謙：ああいう硬いパン大好きなんですよ。この前のも美味しかった。

サ：ありがとうございます。それも流ってというか。

私もまさかパンを売るようになるとは思わなかったです。

謙：『七良兵衛』で捏ねてるの？

サ：はい。七良兵衛のキッチンを貸してもらっています。なので店舗は構えていないので、予約制でメッセージをいただくとラク…なのと、私が焼いたら「焼いたよ〜」とメッセージを出して。あとはスキー場で夏使ってもらっていたり。今はサンアントンでも使ってもらってますけれど。なんか自然と広がって…。

謙：まあキャラ（サムちゃんの）も良いからね。

サ：ありがとうございます（笑）

事業をしていて大変な事はある？

サ：えっと…コロナ禍での起業は想像以上に大変でした。初めて起業するので比べられないんですけど、やっぱり…先が見えないのとか、あと…すごく計画を立てて起業したわけではないので、比較的咄嗟の決断で（笑）貯金もしていたわけではないので、やりたいことがなかなかキャッシュフローの問題で出来ないっていうフラストレーションはあるし、後は「一人でやる」というのがすごく大変だなって。うん…。

謙：まあ、それはきっと楽でもあり大変なこともあるよね。

サ：そうですね。確かに楽なところもあるんだけど、その…事務作業から、ここの営業の時間までって思うと、結構大変だなって思います。というのは単純に、もう1人いれば「このアイデアどう？」とかもお互いにし合えるのが、1人だとなかなかそれが。

謙：だよな。いつも自分で「答え」を出さなければいけないわけだからね。

サ：はい。それがちょっと怖かったりはします。で、ボルダリングも趣味程度でやっていたので、ジ

ムで働いた経験もなかったんで…そこも多分準備不足だったところがあります。野沢にも一年しか住んでいなかったし。

謙：そうだよね。人の流れだったりも掴みにくいだろうね。売り上げ面は予想と比べてどうだった？

サ：なんか予想がほんとにできなかったんで、去年の冬もどうなるかわからなかったし…（ボルダリング中のお客さんに対して「色で分けています。ここにテープが貼ってあるんですけど、黄色が一番簡単です。黄色、オレンジ、ピンク…っていう順番です。）」

すみません。予想はできていなかったんで「この先伸びたらいいな。」って。

謙：だからどうにかなるだろうって言う「えいやあ！」っていう気持ちもあったんだね。まあ、なんでもそうか。

でも、そういう状況で、誰に相談したりしてたの？

サ：えっと…お父さんにまず色々相談したのと、結構…白樺のカツさんがもう野沢の人だから、「野沢的にどうだろう？」っていうのは結構彼に聞いてもらって。ビジネス面はお父さんです。

謙：お父さんは何かビジネスをやっているんだっけ？

サ：お父さんも自営業です。コンサルです。

謙：事業をやっている人の経営のアドバイスとかってこと？

サ：そうですね。事業がうまくいってないところとか、もしくは海外から日本支店を開きたいとかっていうような人にアドバイスを。

謙：それはとても心強いね。えっと…お父さんがイギリス？で、お母さんが大阪？いいっすね、関西弁と英語で。

サ：はい。ふふふ。

謙：でもさあ、そういう環境があると事業を始めようという気になれるだろうね。他の人よりも、より。

サ：はい。その…サポートしてくれる家族がいると、**すごく心強い**と思います。結構、親も心配とかはするんですけど…**ハッピーだったら…なんでも。いいよ**っていう感じで。自由にして下さいっていう…。

謙：いい教育ですね。

サ：はい。ありがたいです。

最近サムちゃんがハマってることは？

サ：最近…**夏はロードバイク**を。去年の夏からやっているんですけど。で、今年の夏から友達の誘いで**マウンテンバイク**を始めて。エヘヘヘ。なんかそっちもちょっとハマりそうな予感が。



謙：ロードはどこへ漕ぎに行くの？

サ：戸隠に行ったり、今年は**佐渡ヶ島を一周**したり。

謙：チャリねえ。

サ：はい。チャリと…何回もやろうとして挫折してるんですけど、**ギター**。エヘヘヘ。あと本も読むようにしています。

謙：ああ。じゃあ最近に良かったもの（本）を一つお願いします。

サ：えっと、英語の本なんですけれど…はい。フフフ。

謙：小説？ビジネス書？

サ：なんていうジャンルなんだろう？なんかちょっと「考え方」っていうのか…。最近。たぶん自分が大変と思って、**余裕がない**って感じ始めたときに、自分の嫌なところとかもいっぱい出て来ちゃったので、そういうのを改善していきたいなあ。って。考え方とか、世界観って感じですかね。**大変な時は本と Podcast** を聴いて。フフフ。



「これからのサマンサ」を聴かせてください。

サ：これからのサマンサは…えっと…。(笑) **今まで結構「バタコ」と**呼ばれるぐらいバタバタと(ハハハハ)していて、それをもうちょっと**余裕のある**感じに…。(笑)

謙：いやいや、それが良さんじゃないっすか？

サ：(笑) どうか。でも、大変じゃなくていいところまで大変になっちゃうので、まあちょっとバタバタを抑えながら、うん。ここをもっと良くしていきたいです。

謙：ありがとうございます。サムちゃん良いわ！



【インタビューを終えて……】

…凄いいい。サムちゃんが描く野沢の未来。
サムちゃんと話していて、まず感じることは「自分の気持ちに素直」だということ。良いことも悪いこともきちんと受け入れ「じゃあどうする?」そんな問いかけを日々自分にしているんじゃないかと思います。
自分が心地良かった空間、大好きだった空間が、自分の大好きな村にあったらもったいない…。そう思ってくれる気持ち自体がまず、地元民の僕にとってもひどく嬉しく思います。
そして実際に形にしてしまう彼女のことを尊敬します。

「スポーツ」と「カフェ」あるいは「食」や「Bar」というような、生活の一部としてスポーツを楽しむ、スポーツを絡ませて他のことも楽しむ、というスタイルは、ここ野沢温泉にも凄くフィットしているし、ウィンターシーズンに頼りがちであった野沢が新しく向かうべき方向なのかもしれません。

サムちゃんのインタビューを文字にしてみて、自分の中に新しい風が吹く感覚がありました。
ありがとうサムちゃん。君は野沢の救世主になるのかもしれない。

The dojo Climbing

電話 / 0269-67-0801

〒389-2502 下高井郡野沢温泉村豊郷7769

KEN TIMESをご覧のあなたに、
プレゼントです!!!



インスタはこちら

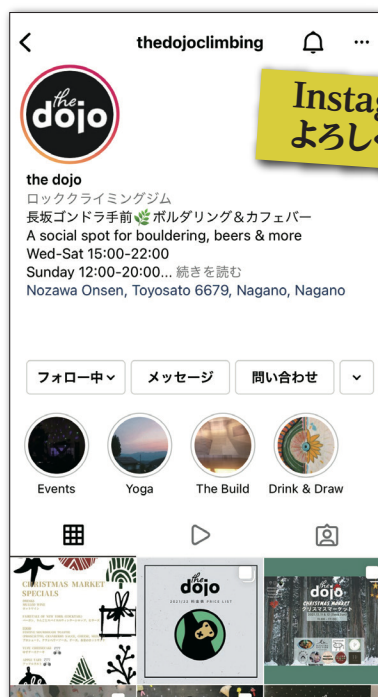
スペシャルクーポン

一日券を購入された方 (村民は1,000円!) に

ドリンク 1杯サービス



期限: 2022年3月31日





バックナンバー

ご契約者のインタビュー

河野謙のホームページでご覧いただけます

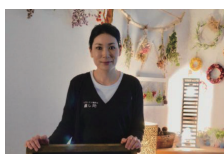
ご契約者の中で「野沢・飯山をメインに事業を行なっている方」に向けてインタビューをさせてもらっています。お客さま同士ががり合い、「地元がより盛り上がっていったらいいな～」と思っています。



「ぼっぼ動物病院」
松川 恵さん



「有限会社 丸見屋商店」
河野 晃久さん



「リラクゼーションNemu」
福澤 美里さん



「nozowa green field」
河野 健児さん



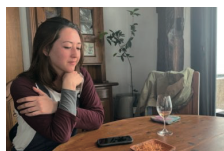
「やよい農園」
滝沢 弥生さん



「and sugar」
高坂 沙也香さん



「ambis」
福澤 龍一さん



「翻訳家」
辛島・ジェニファー・フランセスさん



「POWERDRIVE R117」
庚 敏久さん



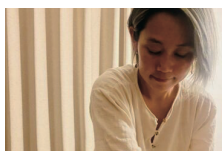
「BODY CARE SALON WISH」
白石 里香子さん



「タイコア合同会社」
ロビンソン・ガードナーさん
奈津子さん



「山本園」
山本 亮介さん
愛さん



「野沢出張マッサージ
サオリセラビイ」
齊藤 沙織さん



「Paint Up Sugar」
佐藤 亮一さん



「タイ料理 クアタイ」
市川 良樹さん
史さん



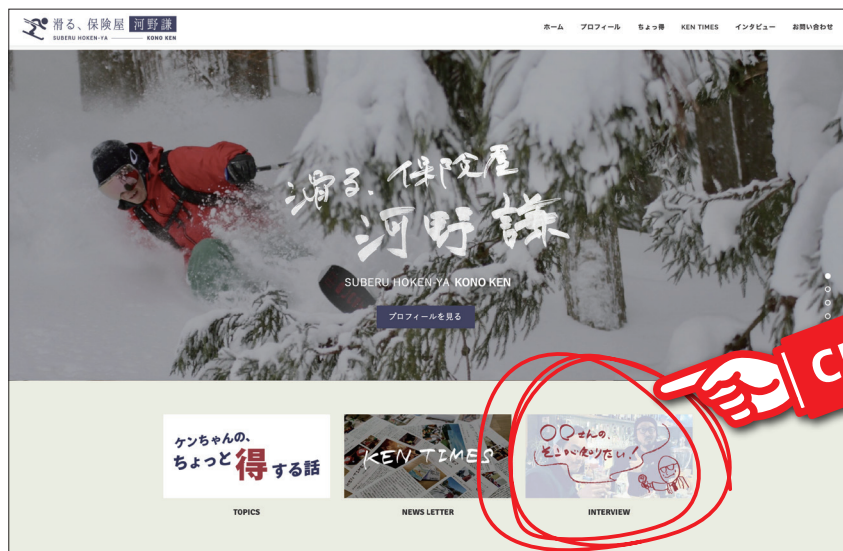
「ひぐらし農場」
木内 晴基さん
(妹) マミさん



「合同会社
MonkeyBusinessCO.」
中嶋サマンサさん



お楽しみに!!



河野謙のホームページ

<https://konoken.com>



皆さんのインタビュー
バックナンバーはこちら
からご覧くださいね!